



# 地域交流活動かわら版

杏林大学 地域交流課 2017/7/31 vol.29

## 4 学部合同の必須授業「地域と大学」全日程が終了

1 年次の全学部必須の授業「地域と大学」において、地域における大学の役割、地域を取り巻く課題、文科省「地(知)の拠点整備事業」のテーマである「杏林 CCRC」の概念を、医学部、保健学部、総合政策学部、外国語学部の合同による講義とグループワークを通して主体的に学びました。



### 理系(医学部と保健学部)と文系(総合政策学部と外国語学部)の授業

4 月 14 日、社会福祉法人全国社会福祉協議会副会長 高井康之氏を招聘し『国の政策決定のプロセス～「介護保険制度」と「社会保障と税の一体改革」を例に～』の講義を医学部・保健学部生が受講しました。同日、総合政策学部・外国語学部生は、地域活動の実際を学ぶため在学生の先輩(総合政策学部の桜沢直樹さん、外国語学部の菅野桃香さん・羽地恵理さん)から体験談を受講しました。



### 4 学部合同の授業開始

連携三市と地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)の事業責任大学である岩手大学より、講師を招聘しての授業が行われました。

4 月 28 日『三鷹市の医療・福祉政策について』

三鷹市健康福祉部地域福祉課課長 馬男木由枝 氏



5 月 19 日『災害に備えて安全対策を！～首都直下地震による被害軽減に向けて～』八王子市財務部管財課課長(防災課代理) 野口庄司 氏・生活安全部防災課主任 奈良田恵子 氏



7 月 7 日『羽村市の地域活性化』

羽村市産業環境部産業振興課 羽村綾那 氏



7 月 21 日『地域と大学～地方創生への関わり～』岩手大学学長特別補佐・特任教授、ふるさといわて創造プロジェクト推進コーディネーター 小野寺 純治氏



### 【新たな取り組み】地域活動を意欲的に展開している企業の方を招聘

6 月 9 日に連携事業を締結している株式会社アトレより、アトレヴィ三鷹店長 山下勝哉 氏・アトレ店舗マネジメント事業部 佐々木玄 氏を招聘して『地域連携で元気な街づくり』をテーマに授業を実施しました。講師の方からは「授業と学外活動とでは学生の発想に違いがあることに気がつきました。また若者視点での新たな発想や新鮮な意見は良い刺激になりました。」と感想を頂きました。



6 月 30 日には羽村市で地域活動を意欲的に展開されている株式会社アサヒ 代表取締役社長 小林貴純 氏を招聘して『羽村市の地域活性化』について講義をして頂きました。小林氏からは「普段味わえない講演ができたので自分自身も大変勉強になりました。また、学生から提案のあった斬新なアイデアを今後の地域活動に活かしたいと感じました。」とのお話がありました。



学生からは民間企業の講義を受けて「リラックスして講師の話が聞けました。」「社会貢献と仕事を展開している姿は将来の目標につながります。」などの感想を聞く事ができました。学生達は地域と大学はまちづくりを進める上で重要なパートナーとなる事をこの授業を通して学ぶ事ができました。



## 生きがづくりコーディネーター養成講座の履修生が得意分野を持ち寄り地域で自主活動を開始します！

生きがづくりコーディネーター養成講座受講生と修了生 12 名が、これまでの知識と実績を地域で活かす活動を開始します。受講生の藤原さんは自身が所有する“空き家”を活用して、地域の「居場所づくり」を立案しまし

た。改築プランを建築士である大久保さん（修了生）が提案するなど、履修生一人一人の得意分野を発揮する場として企画を作成中です。

生きがづくりコーディネーター養成講座で学んだことを実践で活かしながら打ち合わせを重ね、地域の方の協力も得て、7月末に拠点となる空



家の改修が完成しました。「人と人とを結びつける」ことができるようにとの思いで、家の名称を『おむすびハウス』と名付けました。さらに、三鷹市の関係者の方々のご協力も得ながら運営企画会を重ね、運営の為に自主グループ（ボランティア組織）を発足しました。“おむ

すびハウス”にちなんで、名称を『おむすび倶楽部友の会』となりました。地域の高齢者の方や障がい者の皆さん、子育て世

代の方々、学生さん、外国の方など地域の皆さんが気軽に立ち寄り、ほっとしてくつろぎ、笑顔になっていただける場所となるような活動を検討中です。10月の開所式に向けて、8月は企画会と運営準備、9月にはプレオープンを目指しています。



## 救急救命学科生が羽村市中学生にBLS指導を実施



6月16日に保健学部救急救命学科44名と教員12名が、羽村市立中学校3校、計505名の生徒に対してBLS（一次救命処置）指導を行いました。救急救命学科3年生が中学生への指導を担当し、胸骨圧迫心マッサージやAEDの使用手順などの実技指導を実施しました。当日は、気温も高く暑い中での指導ではありましたが、スムーズに進行し好評の内に終了することができました。受講した生徒からは、「倒れている人を発見したら勇気を持って対応したい。」と心強い言葉がありました。また、指導者となった学生は、「指導することの難しさを学び、充実感を得た。」との感想がありました。

## 第6回 はむら環境フェスティバルに参加



6月3日第6回環境フェスティバルに総合政策学部と外国語学部の学生2名が参加しました。フェスティバルでは、ステージイベントの司会を担当しました。ゆっくり聞き取りやすいアナウンスが好評で活動にも意欲的に取り組んでいた様子を羽村市の担当者から伝えて頂きました。



参加した学生からは、環境を守る気持ちを地域の方と共有する事ができ、自分たちの今後の活動に繋がる貴重な体験となったと感想を寄せてくれました。